



## 「 集団の中で個が育つ 」

校長 中野 瑞枝

5年度がスタートして、はや3か月が経過します。生徒は、新しいクラスにも慣れ、勉強や部活動、行事などに頑張っており取り組んでいるところです。3年生にとっては、部活動の最後となる夏の大会も始まりました。これまでの練習の成果を発揮して欲しいと願っています。

さて、1学期行事のメインとなる体育祭が、6月6日に行われました。今年は、学校運営協議会、KCS(学校地域ボランティア)の方々をお招きし、保護者参観の人数制限をなくし実施することができました。体育祭委員会が中心となって動き、種目を決め、各委員会や部活動の生徒も協力してルール確認や用具の準備などを行い準備を進め本番を迎えました。体育祭は、生徒それぞれが、何かしらの役割を担います。運動が得意な生徒も苦手な生徒も、話し合っ出て場する種目を決めるなどして、クラスで協力し、共に応援したり、励ましあったりして集団で団結していくことに行事の大きな意味があり、ねらいがあります。

幼児教育では、「一人でできないことも、みんなとならできる」ということがよくあると言われ「集団の中で個が育つ教育」を中心に学級経営をすることが多くあるということです。中学校でも、同じことがいえるのではないかと思います。クラスや学年集団が互いに響きあう共振の関係は、仲間意識や連帯感、互いの信頼関係を育み、それを土台にたくましい個が育つものと思うからです。

体育祭の本番までは、思うようにいかないことやうまくいかないことがあったでしょう。どうしたらいいのかを、みんなで考えた場面もあったと思います。でも、その課題をみんなで乗り越えた時には、喜びは何倍にもなって心に残ります。心で感じて動く「感動する」という経験は、生徒の成長を促します。「また、頑張りたい」とか、「今度こそ」という行動のもとになる意欲につながるからです。行事を通して生徒一人ひとりが、それぞれの役割を担い、様々な経験をすることで自尊心や協調性、コミュニケーション能力が培われていきます。助けあったり教えあったり、時には、相手の課題など言いにくいことも伝えあったりしながら、仲間とともに成長する集団に育ってほしいと思います。

お招きした地域の方が、「小学校を卒業して2か月ちょっとなのに、子どもたちの顔つきが引き締まっているなあ。競技中の生徒は、どの子も真剣でいい顔をしている。」と言ってくださいました。小学校時代から見守りをしていただいている地域の方の目には、子どもたちの成長を感じられ引き締まった顔に写ったのでしょうか。特に体育祭では、力強さとかたくましさ、中学生期の成長の著しさを見て感じ取ることができます。勝っても負けても、競技中の真剣に前に向かって進む生徒の姿や応援する姿は、一人ひとりが輝いていて立派です。私は、「生徒が立派に成長している」とおっしゃっていただいたことに大変うれしく思いました。

おとなでもなく、こどもとも言い切れない中学生は、繊細で、なかまの声に敏感です。友を通して自分を見ているともいわれています。まだまだ、心配な面があるのは当然ですし、おとなの手が必要です。いろいろなことを頑張ろうとしますが、落ち込むことも多々あります。学校でも気をつけて生徒一人ひとりを見守って支援していきませんが、ご家庭でも心配な様子がみられましたら、ご連絡ください。引き続き、教育活動充実のために、皆様のご支援とご協力をいただきますように、どうぞよろしくお願いいたします。